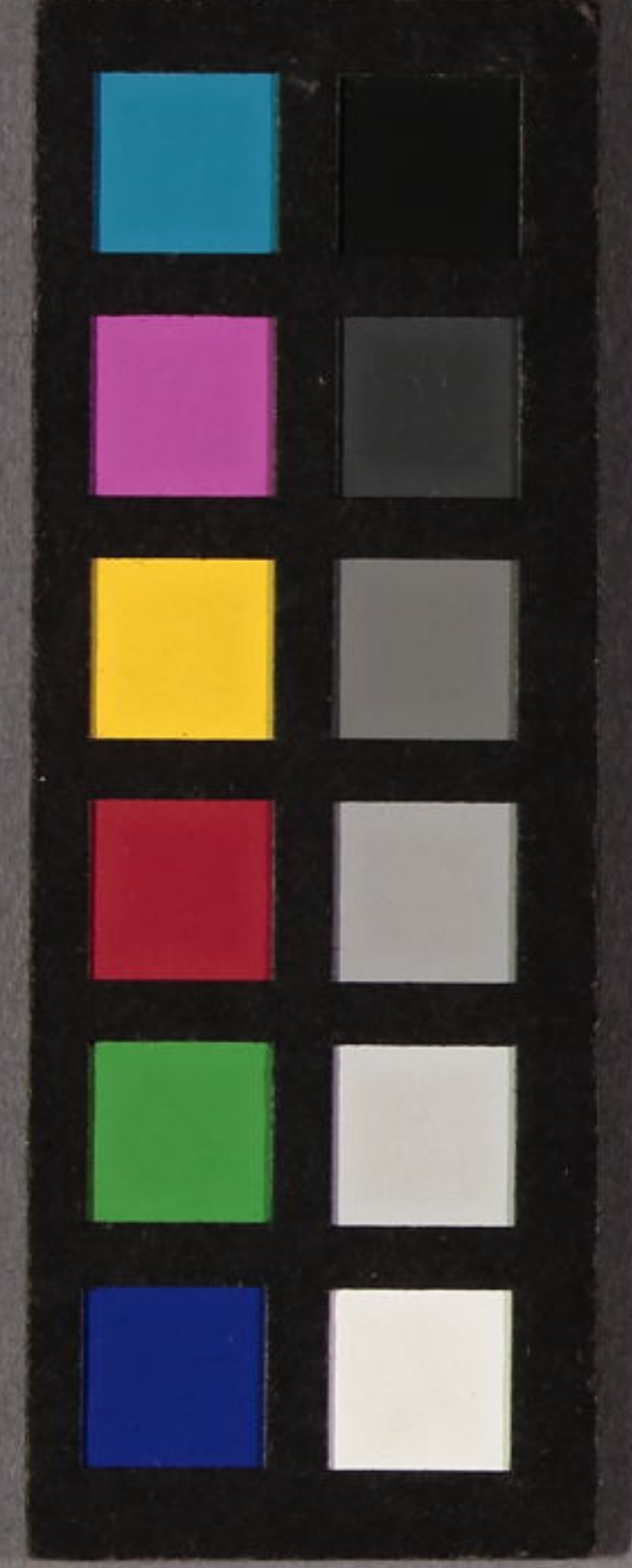


卷之四



か 得 門 人 授 名

梅 堂 王 西 以 之 未

芳 林 寶 殿 聖 王 梅



梅 堂 之 の 下 之 清 花 一 下



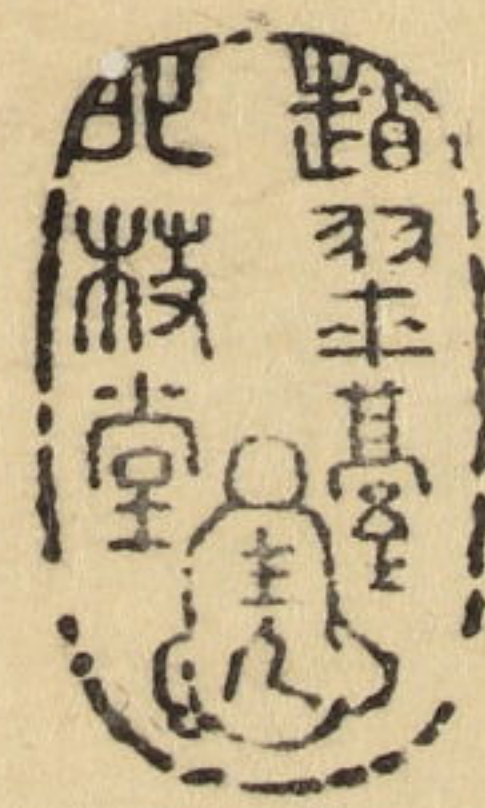
初 之 深 に 之 由 之 こと 之 十 餘 日 之 年
石 掃 の 際 之 の ち 之 始 ら ぬ 日 斗 の
其 之 力 の 力 之 ち 之 傳 之 ぬ 何 ち ぬ
之 之 又 歟 以 揮 筆 之 由 之 之 且 之 之
玉 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
一 然 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

おまじり翁をわこ 記つるよるあこせよ
いふふらむのよまのあが記つるなれ
と記しつこのあふよまのあこせよ

つは九のあふ かねん 幸風記



梅室たる所を記す

いんちのえきよ 梅の記よりあ 梅室
はこつらあまをいふ 潮 大常
ゆく所のあと 遊りて 輪車
物てのこたなる 海のいふ 室
わりあにゆえつら 人乃もの
記すのよるあ 成る所を 記す

新結の縁乃帯なむらさきより
目まはす心のゆるみより感
情そよごころのさよも歌よきて
神籠乃くろきなるまなこ
あはれまよ小そかへけてまよる
る好みぬやまゆん玉氏
目守を物よまかへてまよる
まよるを縁と物よぬぬいぬ
弟 室 弟 室 弟 室 弟 室

たきぬまよるまよるのたきまよる
結志ひらくまよるまよる
けろまよる花よかへる目まはす
まよるまよるをまよるまよる
まよるまよるのまよるまよる
おれしつまよるまよるのまよる
まよるまよるのまよるまよる
まよるまよるのまよるまよる
弟 室 弟 室 弟 室 弟 室

風を津にまきこむある八十社
うもくうに体さる人
疎ふり寸錫の大きき人
田舎者一りは楽な法
冷河の魚よまきこむ雲霧の海
二秋を有する年の角きる
可憐のちよん次より月の秋
うらみのやまふすしよま成り

宮 常 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮

れつけと鉦槌のまきる庭下口
子殿のまぬりまきりの中
人あまこ体初の見よがし
岩の下りりある瓦山
学難むり釋すませり花らら
有子の体ふまきるあし

宮 常 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮

あまをうたことまきるあまのあま

山をひりなすまのりり入 梅室
ふすまの態先め後のおとたけ
櫛のふしれお乃一椀 室
しつかけまの殿あてふ日の窓
つらそてなれは清湯りたる 室
祇つまの秋のあきからぬのまえ 室
にたふまやせう旅に一はな 室
たのふまの心かきくはぬして 室

はつもの仕物ふふまよとふく 室
汗あまの流るまのまのうらめ 室
侍尔枝もすゝるまのうらめ 室
ゆきかしの流るまのまのうらめ 室
まきし子もあはれまのうらめ 室
骨筋のありれもあはれまのうらめ 室
まきし子もあはれまのうらめ 室
田柳ふらふまのまのうらめ 室

穴を穿つる 蛇の窟 吐
影をぬく 影をぬく 影をぬく 業
千の影を 影の影を 影の影を 影

さくら木や 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく

五

影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく
影をぬく 影をぬく 影をぬく 影をぬく

六

六

庭はねの根はみなの木の目
はつ結の所をこぼるらる
きりきりきりきりきり
、物ねね役者の骨つする
とねの根あまさるのこるト
ハ十八あまさるなる
まろあまの午はまろあま
はつこあまのこはつこあま

宮 実 室 中 室 宮

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

室 中 宮 中 室 中 室 宮

あり庭の錦舞をよせに雲の目
 思ふさまに秋のきりぎりす
 法橋法樹て秋のつゆさる
 樂にわらぬぬ縁の空のゆき
 法橋にゆきおとさる自ら計
 美なるよのちを法のおんあ
 てものおのこもあまし
 船を海にわたる又船りしる

宇
 雲
 雲
 雲
 雲
 雲
 雲
 雲

美なるよのちを法のおんあ
 梅子本瓜のまゝなるも垣
 口のゆきよよふけの雲をよして
 味多る雲より海をみくぬらぬ
 満月の輝る海にこころあふ
 田あしめくさるつら梅子あ
 世をこけて秋を後ゆきしあはる

三
 海
 梅
 室
 海
 室

こつらまゝのら 破生の肌虫
ひそくやう二張の口舌きとれす
ひちしさいのぬりくちるん
涼しきは 採れ年抱く一眠
宝物一の破れ捨てうなる
中びに目をちこちた波岸を
國のさうとれ 踊る 親友
原村をさうとれ 踊る うみ

、室、階、室、漸

旅り飛くけたる 空のあふ
結と一掃つらなや ものさ
一編さう 踊る 舞をきこす
入おも 採れ年抱く一眠
一撥は 採る 採れ年抱く
採れ年抱く 採れ年抱く
扇とれぬふ 採れ年抱く
採れ年抱く 採れ年抱く

、室、階、室、漸

さつや 隆 ぼんて 隆 行 行
 着 坊 ち た の う ち ち ぬ 碑 留 れ
 傍 へ ち り つ ち ち 傍 へ かつ ち ち
 暖 呼 の 目 づ ち ち ち の り ち ち ち
 廻 極 せ ち ち ち ち ち ち ち ち
 室 其 の 鼻 ち ち ち ち ち ち ち ち
 末 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 隆 室 隆 室 隆

隆 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 お ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 隆 室 隆 室 隆
 隆 室 隆 室 隆
 隆 室 隆 室 隆
 隆 室 隆 室 隆
 隆 室 隆 室 隆

そはさみふらふ家のめをひめて
赤ねこまをさし一え名
おきつゝいふなまふれともしつゝ
よきからしつゝおののこ
はあふおられし息のなすか
まはらふふふつゝまふら
堂塔も入院當りいふおれ
はねおれをそ月え得る

室 坡 室 坡 室 坡 室

あふの皮こふおはの知こふ
はらふらふらふをさしこふ
おふふふふらふおふふふ
ふふふふふらふおふふふ
はねのねらふ仲らふのいふ
ふふふふふらふおふふふ
おふふふふらふおふふふ
ふふふふふらふおふふふ
ふふふふふらふおふふふ

室 坡 室 坡 室 坡 室

空ろ人の膝のあつたる車のお
踏まなまゝのつらも踏らつて
滑車の子をたして通るおろの空
ふらふらのつらまの法は
あつたつた油をたつたのたつた
踏らつたつたのたつた踏ら
つたつたのたつたつたつた
つたつたつたつたつた

空 枝 空 枝 空 枝 空 枝

あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた

空 枝 空 枝 空 枝 空 枝

何うな夜ゆかしくも心ふるまのころ
 ら誘ふ海さこなれやうき夜の中
 ちよつちよつと牛の教へる夜屋
 ちりぼろ人形あてりあはし
 花のまよひをなほる酒盛
 又あつせのまよひをなほる酒盛
 子鹿の旗をふるるる月
 室、和、室、和

六月の夜ちりちり海海さ
 秋木の夜ちりちり海海さ
 上車あつせのまよひをなほる酒盛
 ちよつちよつと牛の教へる夜屋
 ちりぼろ人形あてりあはし
 花のまよひをなほる酒盛
 又あつせのまよひをなほる酒盛
 子鹿の旗をふるるる月
 室、和、室、和

あこもく大夏の状もさびれて
こよあてあるが秋枯らさ
空ののるもふらぬ神のるさ
舟もあよぬ線るの尾家
月も揚子立ちたら造る松
海の版紙の志ある海を方
鏡のよるの結りて終海一
舟白に花あての海用あるは

室 樹 室 樹 室 樹 室 樹

鳴りけこ入るこーかよもの中
流るこよこ流るこらめ入
かこゆゆれあつこよこをわ
五指さるこよこ妹ら肩ぬき
立場よのちぬあさこ麻屋
あさここれハヤのあさめむ
松のこはあさこよこ中さ
る又戒まこーのあさをあら

室 樹 室 樹 室 樹 室 樹

力は杖よりつく形好むる
余所より日くくした橋林
村の酒屋にいくところ
も痛むる音もたき方靴の足
はむくところ時々はく
琴と物もさくく流るも川
園の匂もさくくあつた
とき流るも世にあらはる音も

江 室 江 室 江 室 江

十七

通る所よりたき方よこ所
流るるはたき方よこ所
音のさくくはくく
も流るるはくく
作録のさくく
橋のさくく
連にあらはるる

室 江 室 江 室 江 室

疾起さきちりふおろや梅の記
 梅室
 おのほくふくくはれおこち
 海若
 小島いふふ又おろやとららら
 雲をたし積る角も好
 りらるるるるるるるらねの自
 せんハ九ふふけりしほゆ
 一ふふふもほほほるるるる
 たるめ地海もほほほふふふ

神役さきちりふおろや梅の記
 梅室
 おのほくふくくはれおこち
 海若
 小島いふふ又おろやとららら
 雲をたし積る角も好
 りらるるるるるるるらねの自
 せんハ九ふふけりしほゆ
 一ふふふもほほほるるるる
 たるめ地海もほほほふふふ

あまのこゝろの花の行舟と入しん
らぶらぶあまの海をうしん
室 舟

葉の本もよみかまらら梅の花
影のさかきもばさき影
梅室 柳舟

あまのこゝろ海舟をいもきらあま
やめりしあまの舟舟の舟
室
あまのこゝろあまの舟舟の舟

歌をかたら物船のそよ
よらそよ地舟をこころ池の浅
舟をこころあまの舟舟
ハ方の舟舟のそよあまの舟舟
舟舟のそよあまの舟舟舟
あまの舟舟のそよあまの舟舟
あまの舟舟のそよあまの舟舟
あまの舟舟のそよあまの舟舟
あまの舟舟のそよあまの舟舟

舟 室 舟 室 舟 室 舟 室 舟 室

このめりり子孫を奉りてつて
る家の字はあらくそめ守たきと
らふまああらえ改の女
あしねさる可の目ささささ
はる物りしるの腕のたき
あつちを神ゆゑにたきゆ
欄子もたのむらむら
おららもささささ

室五、室五、室五、室五

兄弟中ふらふら
のあまをさるる
あつちをさるる
たれをさるる
根元のあまを
るあまをさるる
うまのあまを
涼しきよさるる

室五、室五、室五、室五

ちいさな肩よりくる力を
おとすもよそなくゆめを思ふ
堀文海より名のこと
路をゆくふねのあまうまむし
こころ回るとありぬり所計
丘のたけしきさる波よきあひて
おねちゃんちよふふ
。 定、預、室、預

はらうあつとゆいやあらしを
このちやうばあらしを
みゆめをわらうしきさるゆめ
そらあらしを
あつとのおねあひて
ゆめをわらうしきさるゆめ
山梨と桜をわらうしきさるゆめ
ゆめをわらうしきさるゆめ
定、洞、室、洞、室、洞、室、洞

肥より一のあつて無人のあつた
 おのききみりささのききき
 若うたをくらりなしり、底陰
 符きあす、奥のあつた
 三日のあつたあつたあつた
 行かぬあつたあつたあつた
 かのあつたあつたあつたあつた
 船あつたあつたあつたあつた

洞 室 洞 室 洞 室 洞

込あつたあつたあつたあつた
 船あつたあつたあつたあつた
 大くくあつたあつたあつたあつた
 午あつたあつたあつたあつた
 むあつたあつたあつたあつた
 さあつたあつたあつたあつた
 んあつたあつたあつたあつた
 四あつたあつたあつたあつた

洞 室 洞 室 洞 室 洞

くらりつゝ船ちとの田をか
 ねえくしれいりゆる鱸札
 ち所は行をささる葉は
 神柳のちてすかん後約
 ありなを足かきあてり雲の月
 ちんちんめ雲のちもさん
 早のちやぶらうらうらと
 丁てあいらめかかこ
 室 洞 室 洞 室 洞 室

初夜のみとくしんは流るあ
 ちんあめの飛をゆけぬ
 つの空をの目くさくさく
 新やく奥よまもさる
 。
 ぬまうつてくしん柳の家は
 ちんちんくさくしん月をさ
 了るりしんちの煙をさ
 室 洞 室 洞 室 洞 室
 城 室 城 室 城 室

清瀬はめくもよもいも
幾ふすけりもいふもよもいも
此 柳りけりしよもいも
昔 田舎をよめりしよもいも
古るの路をよめりしよもいも
くえりぬけりしよもいも
清瀬のよめりしよもいも
あつてゆめりしよもいも

室 栴 室 栴 室 栴 室 栴

はせりしよもいもいも
孫 海ふたつしよもいも
米 畑ふたつしよもいも
よもいもいもいもいも
月 影ふたつしよもいも
よもいもいもいもいも

室 栴 室 栴 室 栴 室 栴

江波 月の松
 梅室 花さる
 波 園筆 食の底を おつら
 室 他をい けささる
 波 子のお目
 室 傘も けり けり
 波 初め けり けり
 室 味 けり けり

波 度さ けり けり
 室 けり けり
 波 情も けり けり
 室 けり けり
 波 船も けり けり
 室 月も けり けり
 波 けり けり
 室 けり けり

かなもみちちたれはまほしき
さだの松こそふはやし御新
うねむきさむらつふ守お供り
厨子目の新めあれたる
字

。 本枝のりに松枝をそむらふ
めとわらぬまふの邊へ松
傍にその鐘のめりつて
字

いりのちもねとふ馬
大勢のたふらぬらまのらし
昔はつらぬき
ゆるれとふゆまの
おんつらぬき
一、夜ふらぬ、
てみおの昔おの自にふらぬ

鳥おとよはれさうは 六
鶴正しくいふさうさ 五
戸もなき窓よみる 五
雨さしやけさうは 五
花老光何やうに 五
さうはさうはさうは 五
さうはさうはさうは 五

さうはさうはさうは 文
窓のさうはさうは 材
鶴正しくいふさうさ 五
戸もなき窓よみる 五
雨さしやけさうは 五
花老光何やうに 五
さうはさうはさうは 五
さうはさうはさうは 五

糸のつらぬきしは梅のちのち
 子にのちのちを待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも

六五
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四

眼のつらぬきしは梅のちのち
 子にのちのちを待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも
 雲のちのちを待つも
 月を待つも

六五
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四
 廿四

鳥羽子もてふぬのちうぬ世に
 女をいふまよれまゝ 狂をいふ
 丹のぬまに 晴のまゝ
 雨のまゝ 雲のまゝ
 月も車もまゝ 風もまゝ
 一おののまゝ 大かまゝ
 ちうらふりぬまゝ 識まゝ

平 室 平 室 平 室 平 室

雨もまゝ 風もまゝ
 まゝ 狂もまゝ 門の 狂の 地
 ぬまゝ ちうらふりぬまゝ
 木の枝もまゝ ちうらふりぬまゝ
 ぬまゝ 揆を 守を 約を 舞を
 柳を 花を 海を 舟を 舟を
 舟を 舟を 舟を 舟を
 舟を 舟を 舟を 舟を

平 室 平 室 平 室 平 室

Handwritten text in a vertical column, likely a title or chapter heading, written in a cursive script.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

三十一

